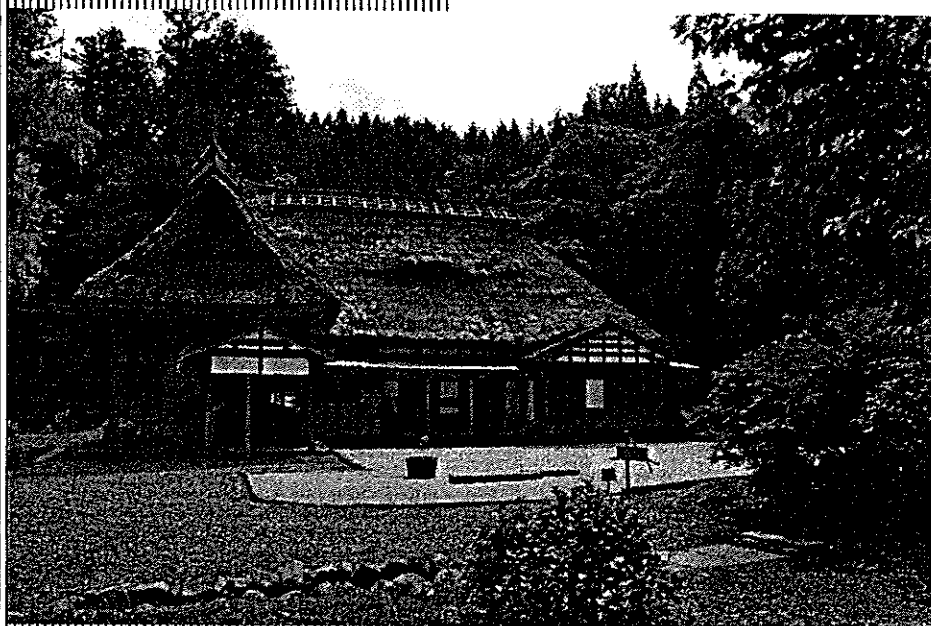


# 菖蒲地区盆踊川音頭集



菖蒲地区振興協議会  
飯田邸保存会

～平成26年12月作成～

《甚句例》

甚句こいの風 ソヨリと吹けば(ソレ)

吹けば港が 近くなる港が近くなる

(港が近くなる)

サーサ皆様 踊ろうじやないか(ソレ)

踊ったつて(ソレ)器量は さがりやせぬ

(器量は さがりやせぬ)

アネサ盆だつてがに なぜ下駄はかぬ

はけば汚れる 緒が切れる

(汚れる 緒が切れる)

立てばシヤクヤク 座ればボタン(ソレ)

歩く姿は 百合の花

(姿は 百合の花)

サーサ皆様 おつかれさまよ(ソレ)

私も仲間にしておくれ

(仲間にしておくれ)

佐渡へ佐渡へと 草木もなびく(ソレ)

佐渡は居よいか 住みよいか

(居よいか 住みよいか)

梅と桜を 両手に持てば(ソレ)

どっちが梅やら桜やら

(梅やら桜やら)

来るか来るかと川下見れば(ソレ)

川原柳の影ばかり

(柳の影ばかり)

咲いた桜に 蝶々が留まる(ソレ)

とまるはずだよ花だもの

(はずだよ花だもの)

めでためでたの 若松様よ(ソレ)

枝も栄えて 葉も茂る

(栄えて 葉も茂る)

盆の十五日に 踊らぬ奴は(ソレ)

家へ帰つて小便(ソレ)いて寝るがいい

(小便(ソレ)いて寝るがいい)

衆がえや 踊り衆よ  
そろりと おたのみだ

私がとるのじゃ なけれども  
有志のお方に頼まれて

頼まれますれば 是非もない  
一言よみあげ たてまつる

声の悪いは生まれつき  
節の悪いは 師匠なし

若い衆方もヤ 女子衆も  
それには続いて子ども衆も

踊りの囃子も 声高く  
何分宜しく お願いだ

---

奇妙頂来 箱根山

箱根の山の地蔵菩薩

登るとすれば 雲かかる

雲には邪念が なけれども

我が身に邪念が あるせいか

花のようなる 子に別れ

四国西国 廻れども

我が子に似たるものはなし

焼け野のきいきず 夜の露

親は凡夫で子が可愛い

今年は豊年 穂に穂が咲いて

一つの枝には 米がなる

二の枝には 金がなる

三の枝には 福がなる

四の枝越え 五の枝に

鶴と亀とが 巢を架けて

深山鳥で まだ里なれぬ

頼みますぞえ 踊り衆よ

めでためでたや この村に

ござるお客は 福の神

《軍歌》

ここはお国の 何百里  
離れて遠き 満州の  
赤い夕日に 照らされて  
友は野末の 石の下

思えば悲し 昨日まで  
真つ先駆けて 突進し  
敵をさんざん こらしたる  
有志はここに 眠れるか

ああ戦いの 最中に  
隣におりし戦友が  
俄かに傍と 倒れしを  
我は思わず 掛け寄りて

軍律厳しき 中なれど  
それを見捨てて 置かれよか  
しつかりせよと 抱き起し  
仮包帯も 弾のなか

戦いやんで 日は暮れて  
捜して戻る 心には  
どうか生きて いてくれと  
思わず落とす ひとしづく

よくよくあげたや よくあげた  
そのようにあげる方 私はたより  
私にとるでは なけれども  
今とつたご先生の声休み

私は地声で 立たねども  
音頭より囃子の 声高く  
文句も細かに 知らねども  
先生に習いし ひとつくさり

忘れた所は とびとびに  
足りない所は 二度読みで  
ヨイヤサの囃子に 乗せられて  
一言口説くぜ がわの衆よ

## 《黄金もち》

一つは火鉢で 焼いたもち  
二つは福ふく 膨れもち  
三つは見事な 鏡もち  
四つは嫁殿の 土産もち

五つは医者殿の 薬もち  
六は婿殿の 搗いたもち  
七つは七草 雑煮もち  
八つは神社の 飾りもち

九つは紅白に 染めたもち  
十は父ちゃん の 千きりもちだ

ハアまたも 衆がえなア